

屋外編

<住宅地>

●路地にあるブロック塀や石塀から離れる

- 住宅のブロック塀や石塀などは、強い揺れで倒れることもあるので、揺れを感じたら、塀から逃げる

●電柱や自動販売機からも離れる

- 住宅街にある電柱や自動販売機などが倒れてくることもあるので、できるだけ、そばから離れる

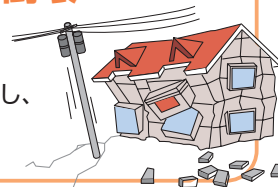


●屋根瓦やエアコン室外機などの落下に注意

- 住宅の2階にあるエアコンの室外機やプランター、屋根の瓦などが落下してくることもあるので、頭の上にも注意して避難

●耐震性の低い住宅の倒壊

- 強い揺れが起きると、耐震性能の低い住宅は倒壊することもあり、道路に瓦礫や窓ガラスなどが散乱し、大変危険なことになる



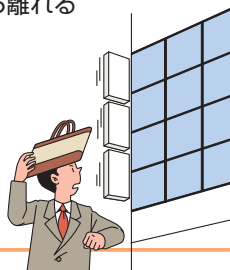
<街中>

●窓ガラス外壁のタイルなどの落下

- ビルの窓ガラスが割れて落下すると、広範囲に散乱
- 外壁に貼ってあるタイルが剥がれて落ちることもある
- 鞆などで頭を保護し、できるだけ建物から離れる

●お店の看板などの落下、転倒

- 商店街のお店にある看板などが落下、転倒してくることもある
- 強い揺れを感じたときには、十分に注意



<山・丘陵地>

●落石に注意

- 山にいるときは、まず落石から身を守る

●崖や急傾斜地に近づかない

- 地震の揺れで地盤が緩み、崩れやすくなっている可能性もある
- 危険な場所へは、近づかない

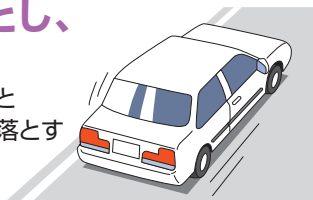


乗り物編

<車を運転中の場合>

●徐々にスピードを落とし、道路の左側に停車

- ハンドルをしっかりと握り、ゆっくりとブレーキをかけ、徐々にスピードを落とす
- 道路の左側に止め、緊急車両の通行を妨げないように



●車のキーはつけたまま

- 障害物にならないように、車のキーはつけたまま避難
- ドアロックもしないで、窓を閉めた状態で車を止めておく

●揺れが収まるまで車内に

- 車を止めたら、エンジンを切り、車内で待機
- すぐにラジオをつけ、地震の情報を入手

●連絡先は見えるところに

- 自分の連絡先を車の見える場所に置く
- 貴重品を持って、徒歩で避難



<バス・電車>

●急ブレーキに備える

- 危険を回避するため、急ブレーキをかけることもある
- 座っているときは、低い姿勢をとり、鞆などで頭を保護
- 立っているときには、手すりやつり皮をしっかりと握って転倒しないように



●乗務員の指示に従って避難

- あわてずに、安全を確認して避難

【帰宅困難者になったら】

●遠距離の帰宅は二次災害も

- 会社などで自宅から離れたところで地震にあったときには、無理に帰宅しない
- かえって二次災害の危険もある

●帰宅する場合には、徒歩で

- 通行できる道路が限られ、交通機関も利用できなくなる
- 車での移動は、緊急車両の活動を妨げる

●家族の安否確認は災害伝言ダイヤルなどで

- 電話は通じにくくなります
- 遠隔地の親戚を連絡先にする
- NTTや携帯電話などの災害伝言ダイヤルなどで、家族の安否確認をとる